

Economic Indicators

発表日: 2018年11月22日(木)

消費者物価指数(全国・2018年10月)

～コアコアの伸び悩みが続く～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL: 03-5221-4528)

(単位: %)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
17	1月	0.4	0.1	0.1	0.2	9.2	0.1	▲ 0.3	0.0	0.1	11.7
	2月	0.3	0.2	▲ 0.1	0.1	13.2	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.1	0.0	14.4
	3月	0.2	0.2	▲ 0.3	▲ 0.1	16.2	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.2	19.7
	4月	0.4	0.3	▲ 0.3	▲ 0.0	12.8	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 0.1	14.3
	5月	0.4	0.4	▲ 0.2	0.0	11.2	0.1	0.1	▲ 0.2	0.0	11.6
	6月	0.4	0.4	▲ 0.2	0.0	6.6	0.1	0.0	▲ 0.4	▲ 0.2	7.1
	7月	0.4	0.5	▲ 0.1	0.1	6.6	0.2	0.2	▲ 0.3	▲ 0.1	8.1
	8月	0.7	0.7	0.0	0.2	7.6	0.5	0.4	▲ 0.1	0.0	9.6
	9月	0.7	0.7	0.0	0.2	7.2	0.5	0.5	▲ 0.1	0.0	8.3
	10月	0.2	0.8	0.0	0.2	9.4	▲ 0.1	0.6	0.0	0.1	10.6
	11月	0.6	0.9	0.1	0.3	10.1	0.3	0.6	0.1	0.2	11.4
	12月	1.0	0.9	0.1	0.3	9.0	1.0	0.8	0.2	0.4	9.9
18	1月	1.4	0.9	0.1	0.4	7.3	1.3	0.7	0.3	0.4	8.8
	2月	1.5	1.0	0.3	0.5	9.2	1.4	0.9	0.4	0.5	10.7
	3月	1.1	0.9	0.3	0.5	7.0	1.0	0.8	0.4	0.5	7.6
	4月	0.6	0.7	0.1	0.4	7.0	0.5	0.6	0.3	0.3	7.2
	5月	0.7	0.7	0.1	0.3	9.1	0.4	0.5	0.1	0.2	11.0
	6月	0.7	0.8	0.0	0.2	13.6	0.6	0.7	0.3	0.4	15.7
	7月	0.9	0.8	0.0	0.3	14.3	0.9	0.8	0.4	0.5	15.7
	8月	1.3	0.9	0.2	0.4	13.9	1.2	0.9	0.5	0.6	15.4
	9月	1.2	1.0	0.1	0.4	14.8	1.2	1.0	0.5	0.7	16.3
	10月	1.4	1.0	0.2	0.4	15.5	1.5	1.0	0.5	0.6	17.2

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○前月から変化なし

総務省から発表された18年10月の全国消費者物価指数(生鮮食品除く)は前年比+1.0%と、前月から上昇率に変化はなかった。事前の市場予想通りの結果であり、内容にも意外感はない。エネルギー価格が前月から伸びを若干高めたものの、エネルギー以外は前月と同じ伸びだった。これで2ヶ月連続の前年比+1%だが、引き続きエネルギー価格に牽引された物価上昇であり、エネルギーを除いた部分での改善は鈍いままという状況に変化はない。

○コアコアは伸び悩みが続く

エネルギー価格は前年比+8.9%と、前月の+8.1%から伸びが高まった(前年比寄与度: 9月+0.62%Pt → 10月+0.69%Pt)。原油等の燃料価格上昇の影響を受けて、ガソリン、灯油といった石油製品価格が前月比で高い伸びとなり、前年比でも伸びを高めたことに加え、過去の燃料価格上昇が



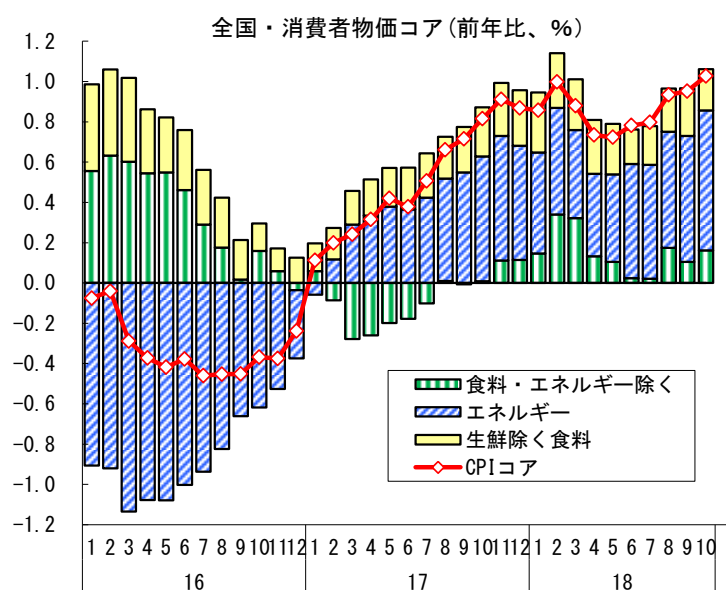
反映されたことで電気・ガス代もプラス寄与が拡大した。

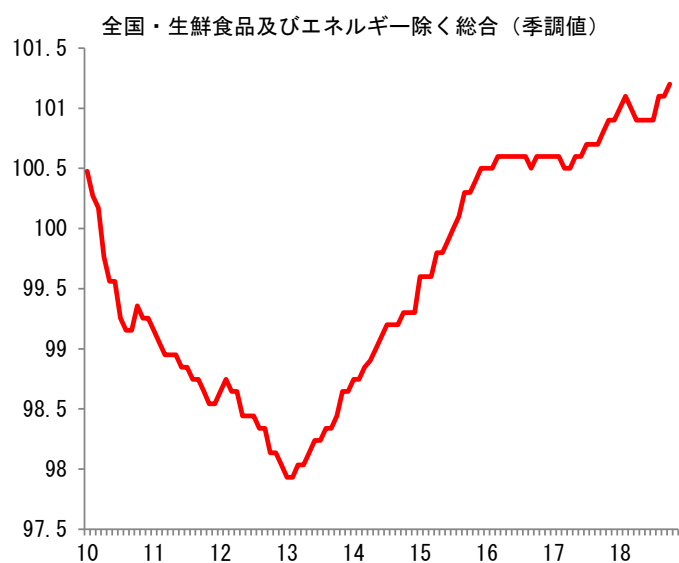
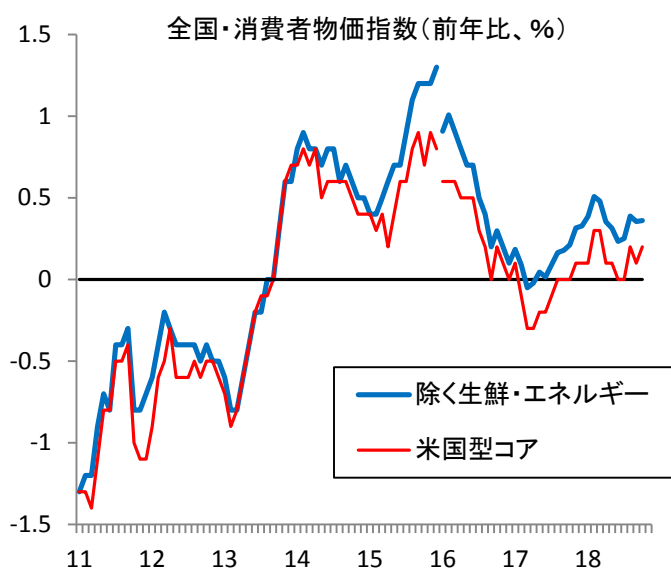
除く生鮮食品・エネルギー（日銀版コアコア）は前年比+0.4%（9月：+0.4%）と、前月と同じ伸びだった。内訳では、増税に伴う値上げがあったたばこや、傷害保険料、ゴルフクラブなどが上昇した一方で、プリンタ、携帯電話機などが下振れに寄与している。また、これまで上昇が続いていた食料品（生鮮除く）も上昇率を若干縮小させている。全体的に、前月から大きな変化はみられない。

日銀版コアコアについては、春先にみられた伸びの鈍化こそ止まっているが、上昇率が明確に拡大していく状況にもなっておらず、基本的にはゼロ%台前半での低空飛行を続けている。個人消費に力強さが欠けることから、企業はシェア低下を恐れて価格の引き上げに踏み切れないといったことが背景にあるのだろう。値上げに対する企業の慎重姿勢は依然として強い。日銀版コアコアについては、「景気回復の持続に伴う需給バランスの改善の影響が顕在化することで緩やかに上昇する」というシナリオを変更する必要はないと思われるが、改善ペースについては今後も緩やかなものにとどまるだろう。

○当面、1%弱の推移が続くと予想

CPIコアは2ヶ月連続の+1%乗せとなったが、この先上昇率が拡大していく可能性は低く、ここで頭打ちとなりそうだ。これまで上昇を牽引してきたエネルギー価格については、いったん10月でピークをつけた可能性が高いだろう。電気・ガス代については過去の燃料価格上昇の影響が遅れて出ることからしばらく上昇が予想される一方、ガソリン等の石油製品価格は足元の原油安の影響を受けて11月以降は下落が予想される。エネルギー価格全体でみると、石油製品に引っ張られる形で前年比のプラス寄与は縮小する見込みだ。そうしたなか、エネルギー以外の部分については前述のとおり改善が鈍い状況であり、先行きも目だって伸びを高めるには至らないだろう。当面、CPIコアは前年比で+0.8%～+1.0%程度の推移が予想される。





(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

(注) 消費税率引き上げの影響は除いている

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

